

オオヒキガエルについて

根拠規定	省令第5条第2号	省令第7条第1号及び第2号(許可条件関係)		省令第8条第2号	省令第8条第4号
目的	特定飼養等施設の基準の細目	(第1号) 許可の有効期間	(第2号) 飼養等数量の増減の届出等 ・届出が必要になる事由と提出期限	識別措置	取扱方法
指定の際現に飼養等している個体を愛がん又は鑑賞のために飼養等する場合	特定飼養等施設が、次に掲げる施設基準のいずれかに該当していること。 1 おり型の施設基準 2 擁壁、空堀又は柵式の施設基準 3 移動式の施設基準 4 水槽の施設基準	3年間(その期間が終了するまでに更新のための許可の申請がなされた場合において、その期間を経過したときは、その申請に対し、許可をするかどうかの処分のある日まで)	・ 輸入、譲り受け、引き受け若しくは捕獲により飼養等する個体の数量が増加した場合、又は譲り渡し若しくは引き渡しその他の事由により飼養等する個体の数量が減少した場合は、その事実が発生した日から30日以内に施行規則第7条第2号イからチまでに掲げる事項を記載した届出を主務大臣に提出すること。	・ 個体の飼養等を開始した日から30日以内に、当該個体を収容する特定飼養等施設に許可を受けたことを示す標識を掲出し、当該標識の掲出状況を撮影した写真を届出書に添付して提出すること。	・ 特定飼養等施設の外では飼養等してはならない。ただし、特定飼養等施設の清掃、修繕等のため、同じ敷地内に位置する他の特定飼養等施設への移動のため、又は他の場所への移動に用いる特定飼養等施設への収容のため、一時的に特定外来生物を特定飼養等施設の外で飼養等することとなる場合であって、その間、複数の取扱者の立ち会いのもと、十分な強度を有する網に入れること等適切な逸出防止措置を講じている場合は、この限りではない。
学術研究、展示、教育、生業の維持、その他上記以外の目的	特定飼養等施設が、次に掲げる施設基準のいずれかに該当していること。 1 おり型の施設基準 2 擁壁、空堀又は柵式の施設基準 3 移動式の施設基準 4 水槽の施設基準	3年間(その期間が終了するまでに更新のための許可の申請がなされた場合において、その期間を経過したときは、その申請に対し、許可をするかどうかの処分のある日まで)	・ 輸入、譲り受け、引き受け若しくは捕獲により飼養等する個体の数量が増加した場合、又は譲り渡し若しくは引き渡しその他の事由により飼養等する個体の数量が減少した場合は、その事実が発生した日から30日以内に施行規則第7条第2号イからチまでに掲げる事項を記載した届出を主務大臣に提出すること。	・ 個体の飼養等を開始した日から30日以内に、当該個体を収容する特定飼養等施設に許可を受けたことを示す標識を掲出し、当該標識の掲出状況を撮影した写真を届出書に添付して提出すること。	・ 特定飼養等施設の外では飼養等してはならない。ただし、特定飼養等施設の清掃、修繕等のため、同じ敷地内に位置する他の特定飼養等施設への移動のため、又は他の場所への移動に用いる特定飼養等施設への収容のため、一時的に特定外来生物を特定飼養等施設の外で飼養等することとなる場合であって、その間、複数の取扱者の立ち会いのもと、十分な強度を有する網に入れること等適切な逸出防止措置を講じている場合は、この限りではない。

オオヒキガエルについて
特定飼養等施設の基準の細目

1 おり型の施設(屋外型、室内型)	
	当該施設が土地等に固定されていること。ただし、屋外から隔離可能な室内に常置する場合にあっては、この限りではない。
	特定外来生物の体力及び習性に応じた堅牢な構造であり、かつ、振動、転倒、落下等による外部からの衝撃が加えられても容易に損壊しない構造であること。
	おりの格子の間隔又は金網の目の大きさは、特定外来生物が通り抜けることのできないものであること。
	外部との出入り口の戸は、二重以上となっていること。ただし、当該施設を屋外から隔離可能な室内に常置する場合にあっては、一重でもよい。
	全ての出入り口の戸には、飼養されている特定外来生物の体がふれない場所に施錠設備が設けられていること。
	排水設備を通じて特定外来生物が外部に逸出しないよう排水設備に逸出防止措置が講じられていること。
	当該施設を維持管理する権能を申請者が有していること。
2 擁壁、空堀又は柵式の施設(屋外に設置する天井のない施設)	
	特定外来生物の体力及び習性に応じた堅牢な構造であり、かつ、振動、転倒、落下等による外部からの衝撃が加えられても容易に損壊しない構造であること。
	擁壁式又は空堀式の施設にあっては、特定外来生物の逸出を防止するため、その壁面は平滑であり、かつ、十分な高さを有すること。
	柵式の施設にあっては、特定外来生物の逸出を防止するため、返し又は電柵等の設備を有し、かつ、十分な高さを有すること。
	柵式の施設にあっては、柵の格子の間隔又は金網の目の大きさは、特定外来生物が通り抜けることのできないものであること。
	電柵設備を設ける場合にあっては、停電時直ちに作動できる発電機等の設備が設けられていること。
	擁壁、空堀又は柵の内部及び周辺には、特定外来生物の逸出を容易にする樹木、構造物等がないこと。
	外部との出入り口の戸は、二重以上となっていること。
	全ての出入り口の戸には、飼養されている特定外来生物の体がふれない場所に施錠設備が設けられていること。
	排水設備を通じて特定外来生物が外部に逸出しないよう排水設備に逸出防止措置が講じられていること。
	当該施設を維持管理する権能を申請者が有していること。
3 移動式の施設	
	特定外来生物の体力及び習性に応じた堅牢な構造であり、かつ、振動、転倒、落下等による外部からの衝撃が加えられても容易に損壊しない構造であること。
	個体の出し入れや給餌に用いる開口部は、ふた、戸等で常時閉じることができるものであること。
	開口部のふた、戸等については、特定外来生物の体のふれない部分に、施錠設備が設けられていること。ただし、施錠以外の方法で、特定外来生物が逸出できないよう開口部を封印できる場合は、この限りではない。
	空気孔又は排水孔を設ける場合は、その孔が個体(幼体を含む。)の逸出できない大きさ又は構造であること。
	運搬に係る特定飼養等施設は、密閉可能な箱、袋等の二次囲いに収納して運搬可能であること。
4 水槽又はこれに類する施設	
	当該施設が土地等に固定されていること。ただし、野外から隔離可能な室内に常置する場合にあっては、この限りではない。
	特定外来生物の体力及び習性に応じた堅牢な構造であり、かつ、振動、転倒、落下等による外部からの衝撃が加えられても容易に損壊しない構造であること。
	個体の出し入れや給餌等に用いる開口部は、ふた、戸等で常時閉じることができるものであること。
	開口部のふた、戸等については、特定外来生物の体のふれない部分に、施錠設備が設けられていること。
	空気孔又は排水孔を設ける場合は、その孔が個体(幼体を含む。)の逸出できない大きさ又は構造であること。
	当該施設を維持管理する権能を申請者が有していること。